

美術館で過ごす夏

暑さを忘れて
静かなひとときを



かわら博士といえば金子さん！

インタビュー中も終始笑顔で、きさくな学芸員さんです。

まもなく開催される特別展「鬼と妖怪の造形―水木しげるの作品とともに―同時開催 水木しげるの戦争と新聞報道」について、かわら美術館教育研究課課長の金子智さんに見どころを聞きました。

そもそもこの展示会を開くきっかけは？

今回の特別展では、高浜にゆかりのあるものを考え、単純ではありませんが、「鬼瓦」から連想して「鬼」。鬼は妖怪のひとつとも考えられているので、鬼だけよりは妖怪もいっしょにやってみるとよいかもしれないなあと。やはり妖怪といえはこの方をおいてほかにいない、というところで水木しげる作品にたどり着きました。

どんなものが展示されますか？

水木しげるの妖怪画が48点、そこから作られたブロンズ像が6点あります。鬼や妖怪の造形品は70種類以上を展示する予定です。

妖怪画は、実際には目に見えない妖怪を姿化していること自体が大変ユニークですし、貴重なものです。1,000点以上ある作品から、愛知にまつわるものや高浜にゆかりの深い鬼、屋根や家屋に関するものなど選びすべりを集めました。

造形品は、鬼瓦や飾り瓦のほか、妖怪をかたどったどろメンコや張子人形といった玩具をメインに、神々の使いであったきつねやたぬきの像もあります。江戸時代以前は、妖怪の造形がタブーであったともいわれ、近・現代のものが多いのも興味深い点です。

個人的に「おすすりめ」は？

水木しげる作品の魅力はいうまでもありませんが、私としては、土製の狐人形が数百体も集まった造形品(左の写真参照)は珍しいものとして紹介したいと思っています。これを積み上げて展示するのか、並べて展示するのか今考えているところです。ぜひ、展示場で確かめてみてください。

同時開催の「水木しげるの戦争と新聞報道展」については？

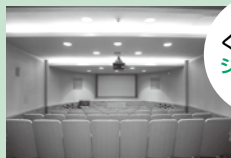
「戦争のリアリティー」に着眼した展示です。華々しい戦争報道の影で、実際の戦場には何がおきていたのか。戦争の記憶が薄れるなか、水木しげるが作品をおして何を伝えたかったのかを感じ、平和の素晴らしさを改めて考える機会になればと思います。

子どもも楽しめるイベントがあると

「ゆかいな妖怪とそのお家をデザインしよう」というワークショップのほか、陶芸教室では皿やカップに妖怪の絵付けもでき、ウクレレ体験やロビーコンサートなどもあります。夏休み中の開催ですので、ぜひ家族で美術館に涼みに来てください。



▲土製狐人形群 (19~20世紀、東京都豊島区南池袋出土) 豊島区教育委員会蔵



夏は、くつろげるシアターが人気！

ロビーコンサート
美術館で楽しむ真夏の音楽会
開催日時 8月10日(日)
①午前11時~トランペットほか
②午後1時~コーラス
③午後3時~ピアノ



ミュージアムショップでは、特別展の期間中、水木しげるグッズの販売も行います。



レストラン
フランス料理が味わえます。ティータイムにもどうぞ。



▲4月にかわら美術館オリジナル「瓦せんべい」が完成しました！ミュージアムショップで販売しています。
1袋(2枚入) ¥50 (税別)

かわら美術館
利用案内
開館時間
午前9時~午後5時
(観覧券の販売は、午後4時30分まで)
休館日
月曜日
(祝日の場合は翌平日)、
12月28日~1月1日